

検査部門の実態調査結果

回収状況

発送数	回答数	回収率(%)
8015	4960	61.9

都道府県別回収状況

都道府県名	郵送施設数	回収数	回収率(%)	都道府県名	郵送施設数	回収数	回収率(%)
北海道	550	324	58.9	滋賀県	75	53	70.7
青森県	111	75	67.6	京都府	138	84	60.9
岩手県	121	81	66.9	大阪府	451	281	62.3
宮城県	146	99	67.8	兵庫県	317	213	67.2
秋田県	99	71	71.7	奈良県	66	42	63.6
山形県	97	69	71.1	和歌山県	61	36	59.0
福島県	174	108	62.1	鳥取県	68	43	63.2
茨城県	164	97	59.1	島根県	71	44	62.0
栃木県	108	69	63.9	岡山県	170	99	58.2
群馬県	149	96	64.4	広島県	201	140	69.7
埼玉県	265	171	64.5	山口県	136	90	66.2
千葉県	237	151	63.7	徳島県	78	46	59.0
東京都	636	323	50.8	香川県	91	65	71.4
神奈川県	334	179	53.6	愛媛県	127	88	69.3
新潟県	216	145	67.1	高知県	176	102	58.0
富山県	65	48	73.8	福岡県	408	248	60.8
石川県	87	59	67.8	佐賀県	61	30	49.2
福井県	68	38	55.9	長崎県	144	89	61.8
山梨県	63	38	60.3	熊本県	188	115	61.2
長野県	168	111	66.1	大分県	141	81	57.4
岐阜県	111	74	66.7	宮崎県	93	54	58.1
静岡県	189	125	66.1	鹿児島県	131	73	55.7
愛知県	274	179	65.3	沖縄県	95	52	54.7
三重県	96	62	64.6	合計	8015	4960	61.9

年度	発送数	回答数	回収率(%)
H15	7799	4173	53.5
H17	8015	4960	61.9

都道府県名	H15回収率(%)	H17回収率(%)	都道府県名	H15回収率(%)	H17回収率(%)
北海道	53.5	58.9	滋賀県	70.0	70.7
青森県	59.3	67.6	京都府	45.8	60.9
岩手県	61.1	66.9	大阪府	49.0	62.3
宮城県	59.4	67.8	兵庫県	55.6	67.2
秋田県	65.0	71.7	奈良県	59.4	63.6
山形県	56.8	71.1	和歌山県	40.9	59.0
福島県	54.3	62.1	鳥取県	52.9	63.2
茨城県	48.4	59.1	島根県	54.8	62.0
栃木県	54.4	63.9	岡山県	50.8	58.2
群馬県	54.1	64.4	広島県	58.3	69.7
埼玉県	55.8	64.5	山口県	54.7	66.2
千葉県	54.4	63.7	徳島県	46.7	59.0
東京都	45.2	50.8	香川県	58.5	71.4
神奈川県	51.3	53.6	愛媛県	57.4	69.3
新潟県	62.8	67.1	高知県	54.8	58.0
富山県	57.4	73.8	福岡県	55.0	60.8
石川県	59.8	67.8	佐賀県	49.2	49.2
福井県	46.3	55.9	長崎県	54.9	61.8
山梨県	55.7	60.3	熊本県	45.4	61.2
長野県	60.2	66.1	大分県	43.5	57.4
岐阜県	60.2	66.7	宮崎県	48.4	58.1
静岡県	58.6	66.1	鹿児島県	50.4	55.7
愛知県	55.6	65.3	沖縄県	41.4	54.7
三重県	54.9	64.6	合計	53.5	61.9

【コメント】

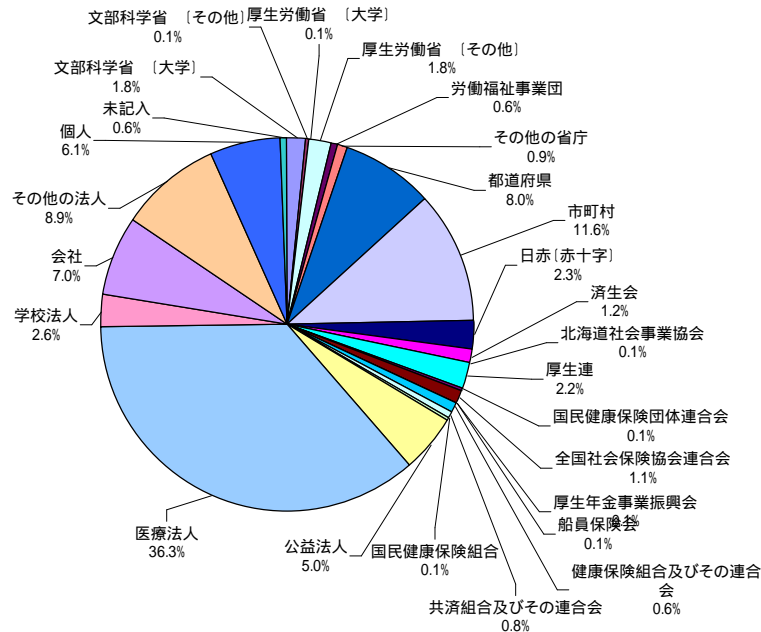
前回の調査では、53.5%であったのに対し、今回の調査では61.9%と8.4%の増加となった。都道府県別にみると前回の40.9%～70.0%が49.2%～73.8%に若干上昇傾向にあり会員の組織調査に対する関心の高さが反映したものと思われる。

経営主体別回収状況

経営主体名	発送数	回答数	回収率(%)
文部科学省〔大学〕	115	87	75.7
文部科学省〔その他〕	52	6	11.5
厚生労働省〔大学〕	11	6	54.5
厚生労働省〔その他〕	110	88	80.0
労働福祉事業団	32	30	93.8
その他の省庁	53	44	83.0
都道府県	583	399	68.4
市町村	844	573	67.9
日赤(赤十字)	158	113	71.5
済生会	72	60	83.3
北海道社会事業協会	19	6	31.6
厚生連	117	109	93.2
国民健康保険団体連合会	7	6	85.7
全国社会保険協会連合会	68	54	79.4
厚生年金事業振興会	8	3	37.5
船員保険会	12	5	41.7
健康保険組合及びその連合会	36	31	86.1
共済組合及びその連合会	45	39	86.7
国民健康保険組合	9	7	77.8
公益法人	408	246	60.3
医療法人	2090	1799	86.1
学校法人	145	129	89.0
会社	404	349	86.4
その他の法人	487	439	90.1
個人	363	304	83.7
未記入	1767	28	1.6
総合計	8015	4960	61.9

経営主体名	H15回収率(%)	H17回収率(%)
文部科学省〔大学〕	21.6	75.7
文部科学省〔その他〕	4.1	11.5
厚生労働省〔大学〕	37.5	54.5
厚生労働省〔その他〕	98.6	80.0
労働福祉事業団	100.0	93.8
その他の省庁	100.0	83.0
都道府県	61.2	68.4
市町村	64.8	67.9
日赤(赤十字)	63.1	71.5
済生会	66.7	83.3
北海道社会事業協会	16.2	31.6
厚生連	100.0	93.2
国民健康保険団体連合会	100.0	85.7
全国社会保険協会連合会	73.0	79.4
厚生年金事業振興会	46.2	37.5
船員保険会	31.3	41.7
健康保険組合及びその連合会	100.0	86.1
共済組合及びその連合会	100.0	86.7
国民健康保険組合	100.0	77.8
公益法人	53.2	60.3
医療法人	98.7	86.1
学校法人	98.0	89.0
会社	98.5	86.4
その他の法人	98.1	90.1
個人	99.6	83.7
未記入	-	1.6
総合計	53.5	61.9

経営主体別比率(%)



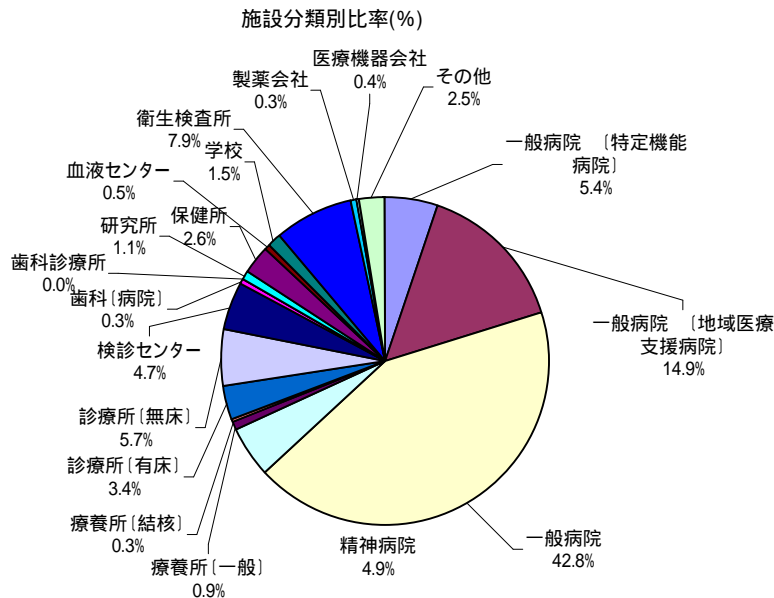
【コメント】

前回と比較して厚生労働省（その他）が、半分に減少したのに対し、文部科学省（大学）が倍に増加している。その他については、若干の増減はあるものの殆んど大差なかった。

施設分類別回収状況

分類名	配布数	回答数	回収率(%)
一般病院〔特定機能病院〕	406	267	65.8
一般病院〔地域医療支援病院〕	1685	734	43.6
一般病院	2444	2114	86.5
精神病院	394	242	61.4
療養所〔一般〕	76	45	59.2
療養所〔結核〕	253	14	5.5
診療所〔有床〕	213	167	78.4
診療所〔無床〕	336	280	83.3
検診センター	461	234	50.8
歯科〔病院〕	68	17	25.0
歯科診療所	0	0	
研究所	145	52	35.9
保健所	234	129	55.1
血液センター	77	26	33.8
学校	128	73	57.0
衛生検査所	485	390	80.4
製薬会社	17	16	94.1
医療機器会社	18	18	100.0
その他	242	124	51.2
未記入	333	18	5.4
総合計	8015	4960	61.9

分類名	H15回収率(%)	H17回収率(%)
一般病院〔特定機能病院〕	41.9	65.8
一般病院〔地域医療支援病院〕	32.7	43.6
一般病院	94.9	86.5
精神病院	56.1	61.4
療養所〔一般〕	62.6	59.2
療養所〔結核〕	9.6	5.5
診療所〔有床〕	97.9	78.4
診療所〔無床〕	98.4	83.3
検診センター	38.9	50.8
歯科〔病院〕	11	25.0
歯科診療所	-	-
研究所	22.8	35.9
保健所	54.5	55.1
血液センター	17.9	33.8
学校	42.9	57.0
衛生検査所	98.6	80.4
製薬会社	100	94.1
医療機器会社	33.3	100.0
その他	40.7	51.2
未記入	-	5.4
総合計	53.5	61.9



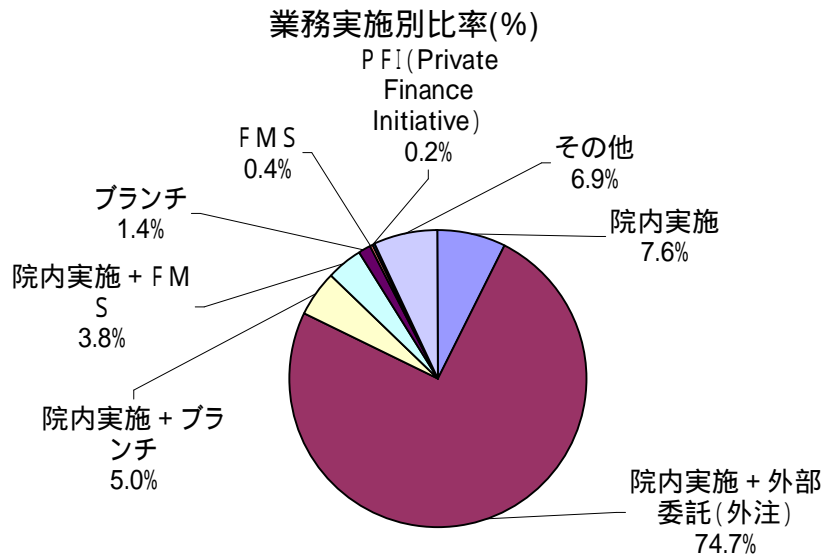
【施設分類別コメント】

前回と比較して療養所〔無床〕と衛生検査所が増加しているのに対し、一般病院〔地域医療支援病院〕、一般病院、精神病院、療養所〔一般・結核〕が減少している。このことは現在の社会情勢を如実に反映しているようだ。

業務実施別回収状況

実施方法名	配布数	回収数	回収率(%)
院内実施	424	371	87.5
院内実施 + 外部委託(外注)	4204	3636	86.5
院内実施 + ブランチ	262	241	92.0
院内実施 + FMS	201	185	92.0
ブランチ	76	67	88.2
FMS	23	20	87.0
PFI(Private Finance Initiative)	9	9	100.0
その他	376	338	89.9
小合計	5575	4867	87.3
未記入	2440	93	3.8
総合計	8015	4960	61.9

実施方法名	H15回収率(%)	H17回収率(%)
院内実施	92.7	87.5
院内実施 + 外部委託(外注)	98.0	86.5
院内実施 + ブランチ	98.0	92.0
院内実施 + FMS	100.0	92.0
ブランチ	100.0	88.2
FMS	100.0	87.0
PFI(Private Finance Initiative)	100.0	100.0
その他	88.0	89.9
小合計	91.1	87.3
未記入	-	3.8
総合計	97.1	61.9



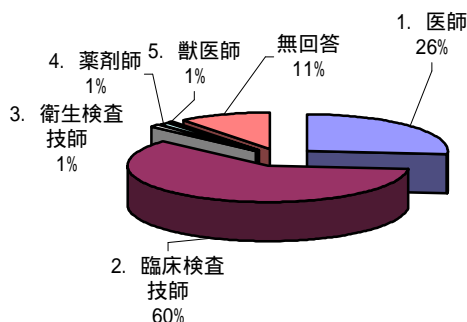
【業務実施別コメント】

前回と比較して院内実施が1.1%、院内実施 + 外部委託(外注)が6.7%の減少であるのに対し、院内実施 + ブランチ1.2%、院内実施 + FMS0.3%、ブランチ0.5%の増加があり、次第に増加傾向にある事が分かる。

検査部門の管理体制について

問1. 検査部門の責任者の職種をお尋ねします。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 医師	1262	29.8	1304	26.3
2. 臨床検査技師	2529	59.8	2996	60.4
3. 衛生検査技師	43	1.0	51	1.0
4. 薬剤師	157	3.7	58	1.2
5. 獣医師			28	0.6
無回答	238	5.6	523	10.5
合計	4229	100%	4960	100%



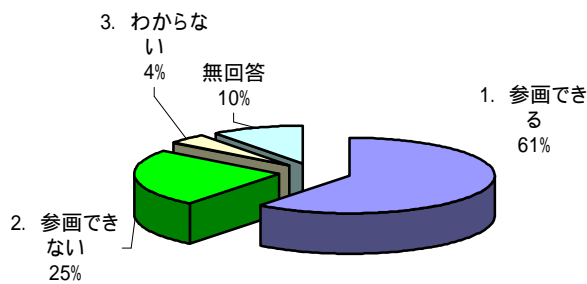
【コメント】

検査部門における臨床検査技師の責任者の割合は、前回調査と殆ど差は認められない。医師が、今回26%（前回30%）で4%の減少、臨床検査技師は、今回60%（前回60%）と変化がなかった。現在、特定機能病院の診療支援部（技術部）として臨床検査技師が最高責任者となるケースが多く見られ、将来はこのような試みが一般病院群にも広がることが予想されることから、臨床検査技師の割合が増えることが考えられる。

問2. 検査部門の責任者が、貴施設の運営会議・経営会議等に参画できますか。

回答	回答数	%
1. 参画できる	3005	60.6
2. 参画できない	1231	24.8
3. わからない	221	4.5
無回答	503	10.1
合計	4960	100%

参画：オブザ-バ-でも可



【コメント】

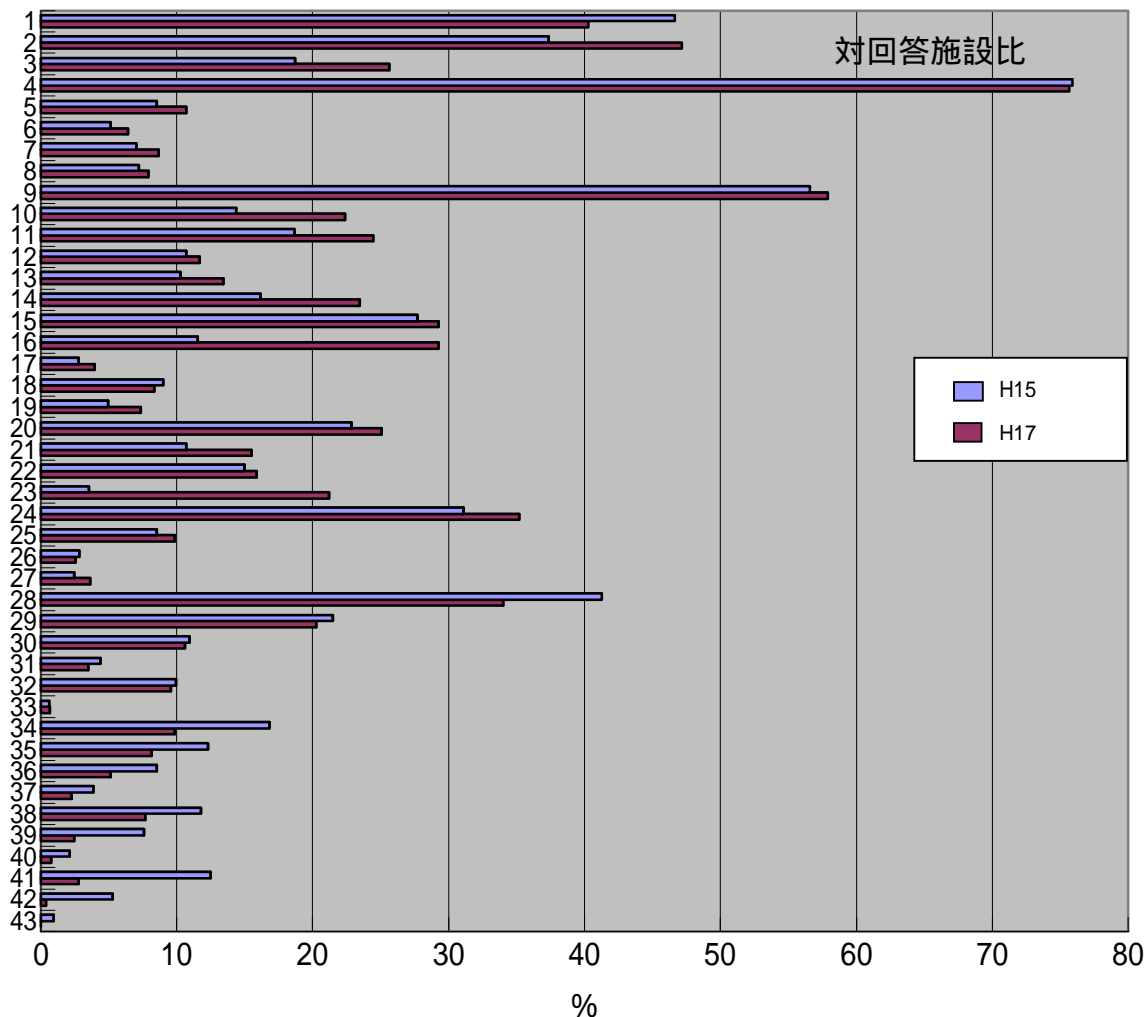
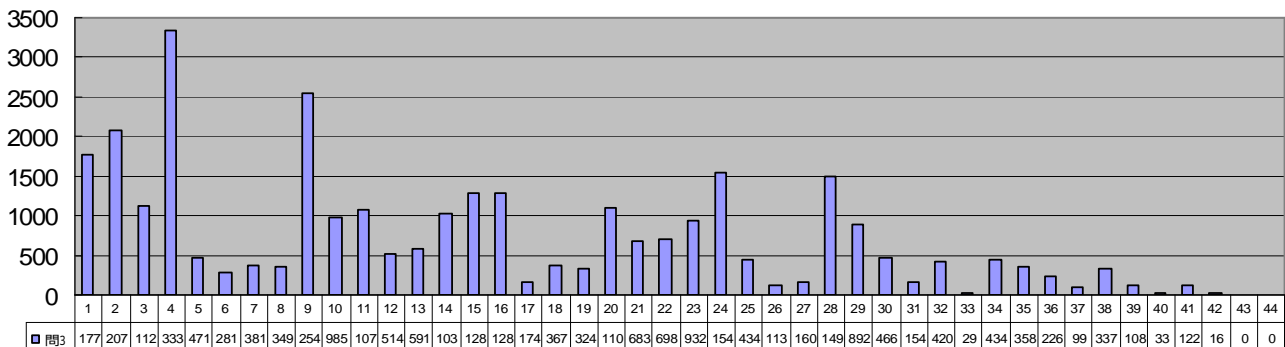
医療施設においては検査責任者の62%強（全体としても60%）が施設経営に参画し経営側の考えが直接伝わる仕組みが出来ていると考えられる。しかしながら、検査室の直接的な責任者の記入にも関わらず「わからない」「無回答」が10%弱あり、施設の経営に無関心な責任者がいることは問題がある。

問3. 臨床検査技師が、次に示す関連会議に参加していますか。（複数回答可）

必ずしも名称が同じでなくても可

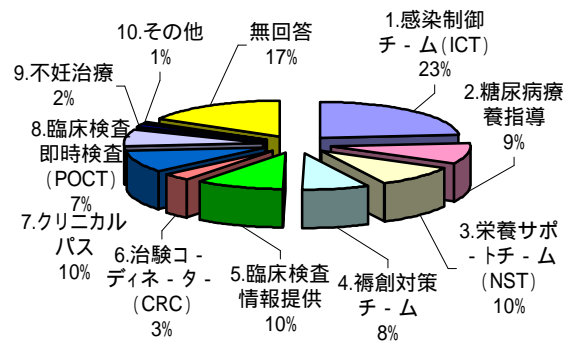
1. 管理者会議 2. 安全衛生委員会 3. 安全性廃棄物管理委員会 4. 感染対策委員会 5. 治験薬審査委員会 6. 資材対策委員会 7. 病歴・病診連携委員会 8. 診療・薬事審議会 9. 事故防止委員会
 10. 広報委員会 11. オーダリング委員会 12. 保険査定委員会 13. 院内合同業務委員会 14. クリテイカルパス委員会 15. 精度管理委員会 16. 救急部門運営委員会 17. 手術室運営委員会 18. 将来計画委員会 19. 倫理委員会 20. 健診委員会
 21. DM(糖尿病)委員会 22. 褥創チ-ム委員会 23. NST(栄養サポートチーム委員会) 24. 輸血療法委員会 25. 経費削減委員会 26. 脳死判定委員会 27. セクハラ防止委員会 28. 臨床検査運営委員会
 29. 防火(防災)委員会 30. 診療情報管理委員会 31. 物流管理委員会 32. CPC(臨床・病理検討会)
 33. 死因症例検討委員会 34. 経営会議 35. システム開発会議 36. 医療材料選定委員会 37. 病棟運営委員会 38. 院内教育委員会 39. 外来運営委員会 40. ボランティア委員会 41. 災害対策委員会

問3



問4. 貴施設においてどのようなチ - ム医療へ参画していますか。(複数回答可)

回答	回答数	%
1.感染制御チ - ム (ICT)	2435	23.6
2.糖尿病療養指導	958	9.3
3.栄養サポ - トチ - ム (NST)	985	9.6
4.褥創対策チ - ム	813	7.9
5.臨床検査情報提供	1059	10.3
6.治験コ - ディネ - タ - (CRC)	332	3.2
7.クリニカルパス	1003	9.7
8.臨床検査即時検査 (POCT)	768	7.4
9.不妊治療	175	1.7
10.その他	60	0.6
無回答	1723	16.7
合計	10311	100%



10.その他 内訳

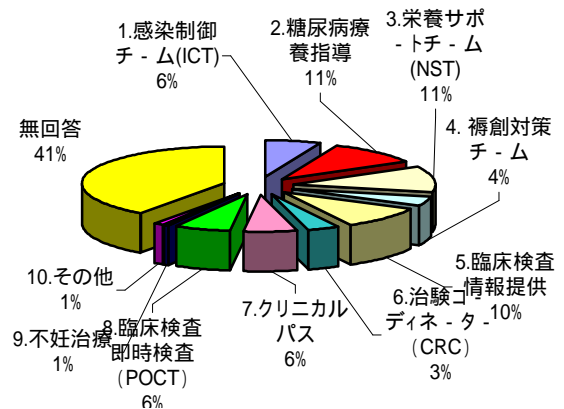
回答	件数
医療安全	10
心カテ	8
リスクマネージメント	6
感染対策 (感染症情報提供)	6
腎移植	6
輸血療法	6
医療情報	4
呼吸療法委員会	4
心リハ	4

【コメント】

ICT・NST・臨床検査情報提供・クリニカルパス・糖尿病療養指導などのチ - ム医療への参画が多くなっている。臨床検査情報提供は程度の差はあれ30%を越す医療施設が実施している。

問5. 貴施設において将来どのようなチ - ム医療へ参画を計画していますか。(複数回答可)

回答	回答数	%
1.感染制御チ - ム (ICT)	428	6.3
2.糖尿病療養指導	725	10.6
3.栄養サポ - トチ - ム (NST)	774	11.4
4.褥創対策チ - ム	283	4.2
5.臨床検査情報提供	669	9.8
6.治験コ - ディネ - タ - (CRC)	236	3.5
7.クリニカルパス	421	6.2
8.臨床検査即時検査 (POCT)	435	6.4
9.不妊治療	51	0.7
10.その他	58	0.9
無回答	2735	40.1
合計	6815	100%



10.その他 内訳

回答	件数
予防関連	5
輸血療法委員会	3
計画なし	31

【コメント】

「問4」と同じような傾向があり計画が順調に推移するICT・NST・糖尿病療養指導・クリニカルパスPOCT等の臨床検査情報提供は半数の施設が実施可能となる。

問6. 貴施設において非会員（検査技師の資格があるが技師会に入会していない）

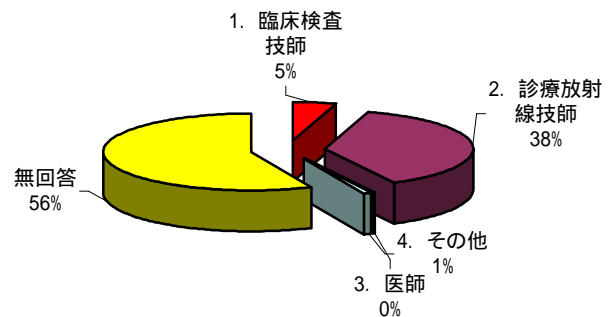
回答	合計	%
全技師数	41399	
非会員数	9240	22.3

【コメント】

調査件数では9,240名（22.3%）が未加入となっている。これを平成17年10月31日現在の会員数48,271名で換算すると約1万人を越す未加入者がいることになる。その割合は病院以外で多くなっている。研修会等への参加が開催日時の問題などで出席できないなど加入の直接利益が供与できない面があるかもしれない。

問7. MR検査を実施している施設では、その従事している職種を教えてください。（複数回答可）

回答	回答数	%
1. 臨床検査技師	234	4.7
2. 診療放射線技師	1862	37.5
3. 医師	17	0.3
4. その他	32	0.6
無回答	2815	56.8
		0.0
		0.0
		0.0
合計	4960	100%



10. その他 内訳

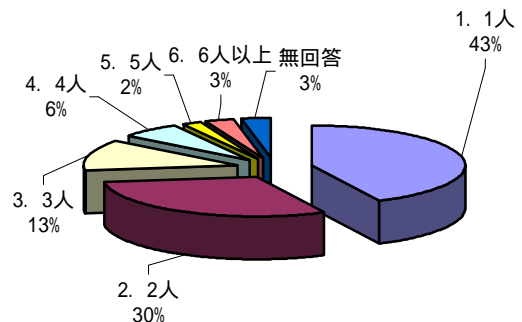
回答	件数
看護師	4
歯科医師	1
ME技師	1

【コメント】

病院では放射線技師が大多数（60～90%）を占めているが、有床・無床の診療所では臨床検査技師が放射線技師を上回っている。全体的には、放射線技師が、38%で臨床検査技師が、5%を占めている。今後一施設でMR担当の臨床検査技師を複数養成し、職域の拡大が望まれる。

問8. 「問7.」で1.と答えた施設で、従事している臨床検査技師数を教えてください。

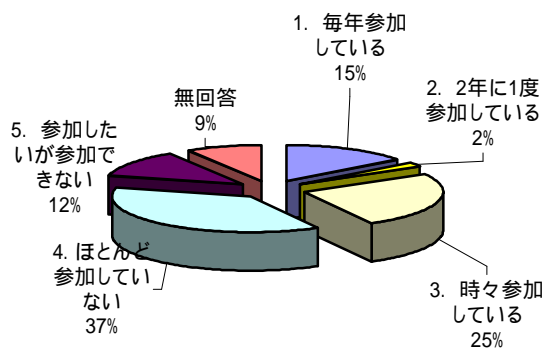
回答	回答数	%
1. 1人	100	42.7
2. 2人	70	29.9
3. 3人	30	12.8
4. 4人	15	6.4
5. 5人	5	2.1
6. 6人以上	7	3.0
無回答	7	3.0
		0.0
合計	234	100%



・日常業務及び研究について

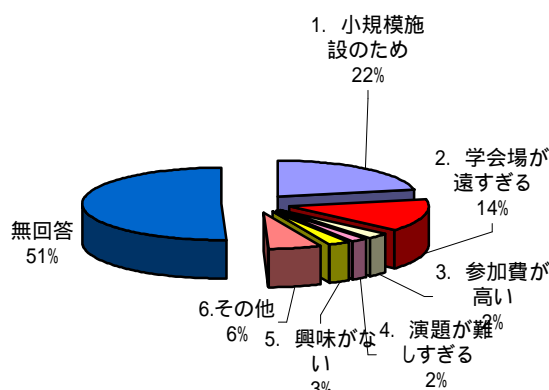
問9. 貴施設の日本医学検査学会への参加についてお尋ねします。

回答	回答数	%
1. 毎年参加している	733	14.8
2. 2年に1度参加している	95	1.9
3. 時々参加している	1249	25.2
4. ほとんど参加していない	1835	37.0
5. 参加したいが参加できない	612	12.3
無回答	436	8.8
合計	4960	100%



問10. 「問9」で4.又は5と回答した施設の方にご質問します。（その理由）

回答	回答数	%
1. 小規模施設のため	1091	22.0
2. 学会場が遠すぎる	718	14.5
3. 参加費が高い	119	2.4
4. 演題が難しすぎる	91	1.8
5. 興味がない	124	2.5
6. その他	316	6.4
無回答	2501	50.4
合計	4960	100%

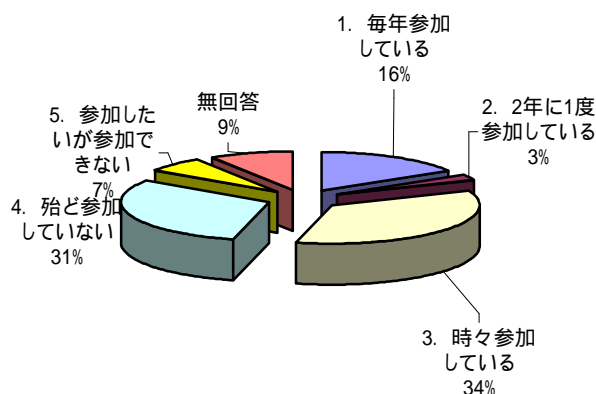


6.その他 内訳

回答	件数
スタッフの不足(多忙含む)	218
学会・研修会費が限られている為	37
専門の学会へ参加	33
演題の関連性が薄い	28
平日にあるから	21
許可がおりにくい・職場環境がそのようにならない為・組織的に参加を認めていない	16
家庭の状況による	3
ランチ化の為	2
レベルが低すぎる	2

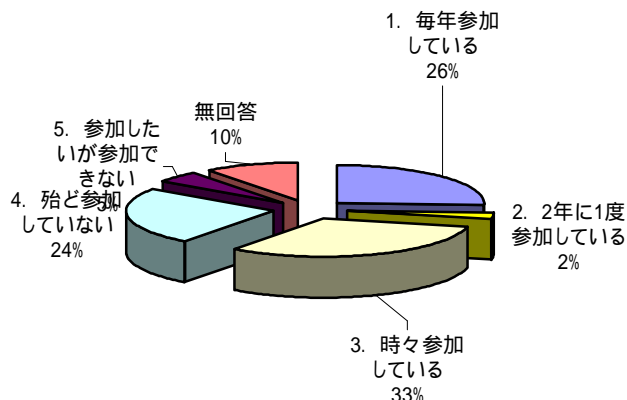
問11. 地区医学検査学会（全国7地区）への参加についてお尋ねします。

回答	回答数	%
1. 毎年参加している	806	16.3
2. 2年に1度参加している	132	2.7
3. 時々参加している	1730	34.9
4. 殆ど参加していない	1516	30.6
5. 参加したいが参加できない	327	6.6
無回答	449	9.1
合計	4960	100%



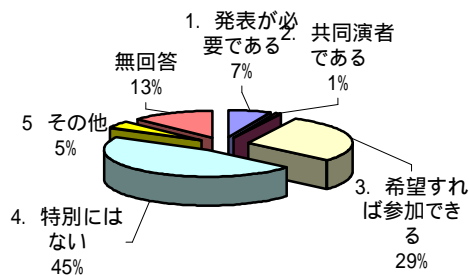
問12. 各都道府県単位の医学検査学会への参加についてお尋ねします。

回答	回答数	%
1. 毎年参加している	1286	25.9
2. 2年に1度参加している	117	2.4
3. 時々参加している	1584	31.9
4. 殆ど参加していない	1210	24.4
5. 参加したいが参加できない	259	5.2
無回答	504	10.2
合計	4960	100%



問13. 参加する場合にはどのような制約がありますか。

回答	回答数	%
1. 発表が必要である	334	6.7
2. 共同演者である	35	0.7
3. 希望すれば参加できる	1437	29.0
4. 特別にはない	2293	46.2
5 その他	229	4.6
無回答	630	12.7
合計	4958	100%

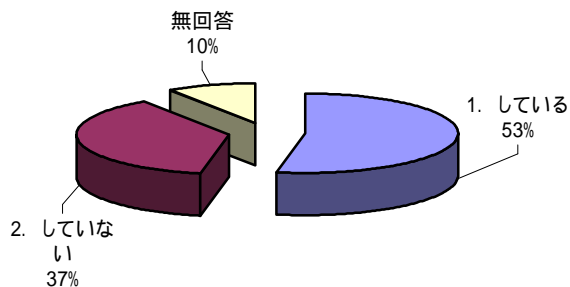


5 その他 内訳

回答	件数
順番制	18
予算	12

問14. 他団体の学会に参加していますか。

回答	回答数	%
1. している	2632	53.1
2. していない	1856	37.4
無回答	472	9.5
合計	4960	100%



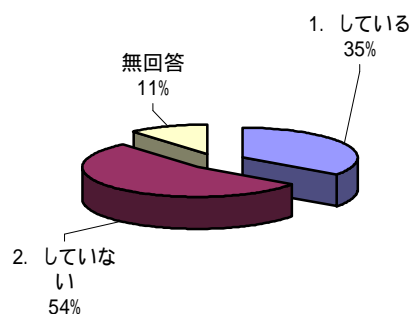
【問9～問14コメント】

学会の参加については、都道府県、地区、全国の順番で参加していた。また、一般病院では他団体主催学会にも参加している傾向が見られた。日常業務以外の研究では約半数の施設で何らかの形態で行われていることが伺えた。

貴施設において臨床検査技師が採血に携わる内容について

問15. 臨床検査技師が採血をしていますか。

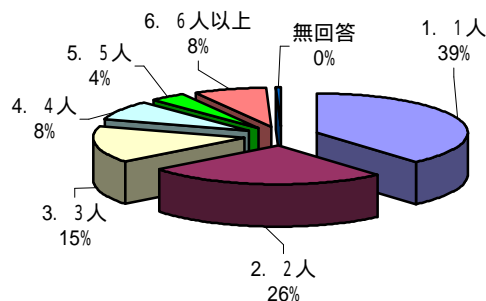
回答	回答数	%
1. している	1724	34.8
2. していない	2681	54.1
無回答	555	11.2
合計	4960	100%



「問15.」で「1.」と回答した施設の方にご質問します。

問16. 何人の技師が採血していますか。(1日のピーク時の技師数を記入)

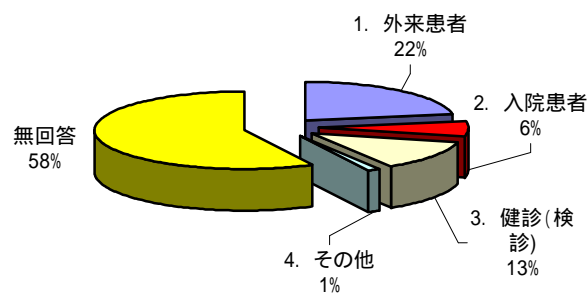
回答	回答数	%
1. 1人	668	38.7
2. 2人	443	25.7
3. 3人	264	15.3
4. 4人	136	7.9
5. 5人	67	3.9
6. 6人以上	138	8.0
無回答	8	0.5
合計	1724	100%



「問15.」で「1.」と回答した施設の方にご質問します。

問17. 採血の対象者は、どのような人ですか。(複数回答可)

回答	回答数	%
1. 外来患者	1279	22.3
2. 入院患者	360	6.3
3. 健診(検診)	719	12.5
4. その他	82	1.4
無回答	3303	57.5
合計	5743	100%



5 その他 内訳

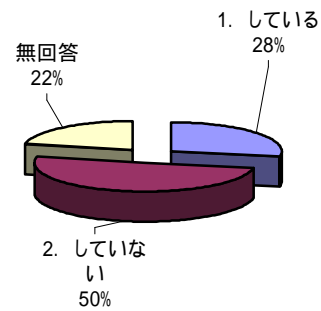
回答	件数
凝固検査	24
職員健診	13
研究用、治験	9
新生児・乳児	5
ドッグ健診者	4
学生	3
負荷試験の時のみ	3
献血者	2

[コメント]
(問15~17)

臨床検査技師が、採血している施設は、34.8%、していない施設は、54.1%であり、まだまだ臨床検査技師の採血が実施されていない施設が多いようである。又、臨床検査技師が採血している施設では、1人から2人での採血が全体の64.4%を占めていることが分かった。更に、採血をしている施設では、採血の対象者としては、外来患者さんが22%と多く、次いで健診(検診)が12.5%を占めていた。

問18. 中央採血室が設置されていますか。

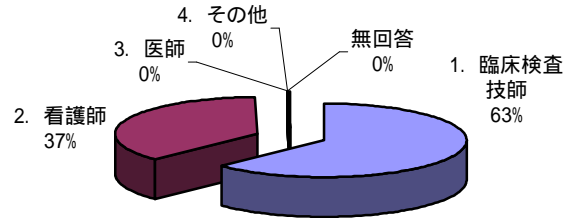
回答	回答数	%
1. している	1394	28.1
2. していない	2496	50.3
無回答	1070	21.6
合計	4960	100%



「問18」で「1」と回答した施設の方にご質問します。

問19. どのような職種の方が、配属されていますか。(複数回答可)

回答	回答数	%
1. 臨床検査技師	1125	62.6
2. 看護師	666	37.1
3. 医師	1	0.1
4. その他	1	0.1
無回答	3	0.2
合計	1796	100%



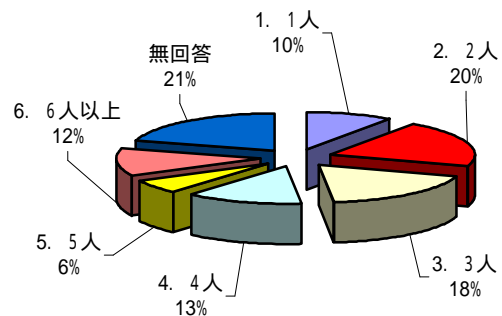
4 その他 内訳

回答	件数
事務員(受付)	46
看護助手	4
検査助手	4
人材派遣	3

「問18」で「1」と回答した施設の方にご質問します。

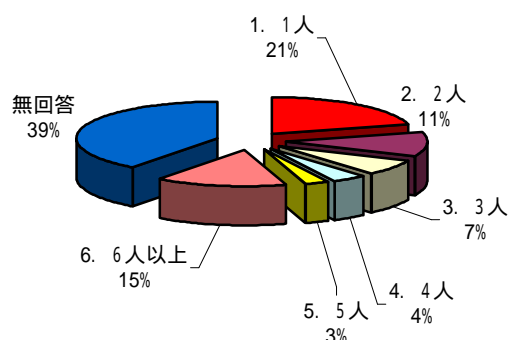
問20. 配属者数の人数をお尋ねします。

回答	回答数	%
1. 1人	137	9.8
2. 2人	283	20.3
3. 3人	252	18.1
4. 4人	183	13.1
5. 5人	85	6.1
6. 6人以上	166	11.9
無回答	288	20.7
合計	1394	100%



「問18」で「1」と回答した施設の方にご質問します。
 問21. 臨床検査技師数の人数をお尋ねします。

回答	回答数	%
1. 1人	289	20.7
2. 2人	151	10.8
3. 3人	98	7.0
4. 4人	56	4.0
5. 5人	39	2.8
6. 6人以上	209	15.0
無回答	552	39.6
合計	1394	100%



【コメント】

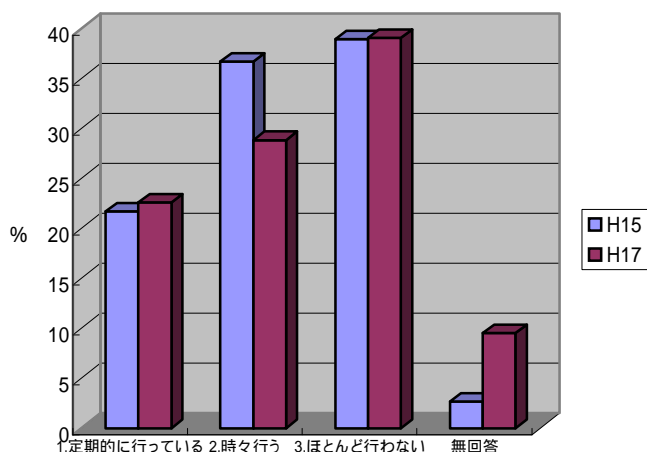
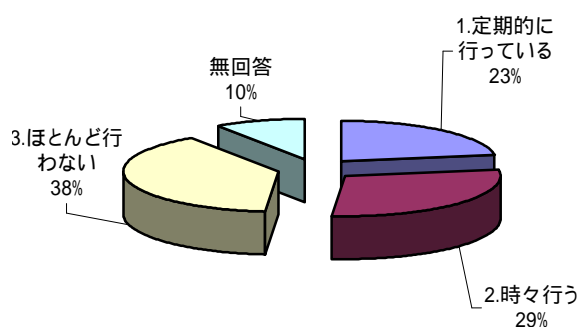
(問18～21)

中央採血室が設置されている施設は、28.1%に対して、していない施設は50.3%とほぼ半数を占めていた。設置している施設には臨床検査技師が、62.6%と一番多くを占め、次いで看護師の37.1%を加えると99.7%になる。設置されている施設で配属されている配属者は、2人が一番多くて20.3%、次いで3人の18.1%、4人の13.1%となり2人～4人までを合わせると51.5%と約半数以上となることが分かった。設置されている施設の中で臨床検査技師数は1人が20.7%と一番多く、次いで6人以上の15.0%、2人が10.8%で1人～2人を合わせても31.5%と意外と少ない事がわかった。

貴施設における臨床検査技師の卒後教育研修について

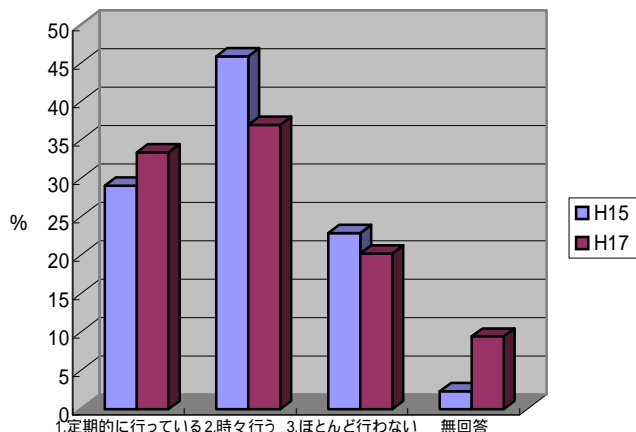
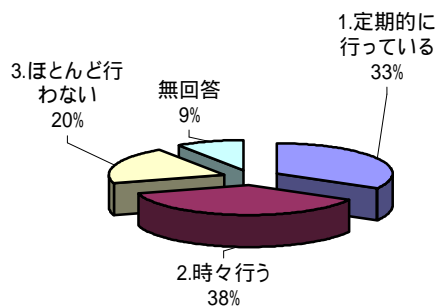
問22. 臨床検査部門で勉強会・研修会を行っていますか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1.定期的に行っている	918	21.7	1120	22.6
2.時々行う	1553	36.7	1431	28.9
3.ほとんど行わない	1646	38.9	1937	39.1
無回答	112	2.6	472	9.5
合計	4229	100%	4960	100%



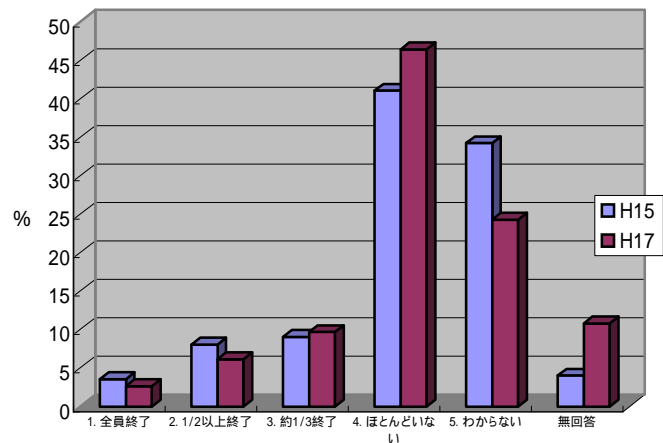
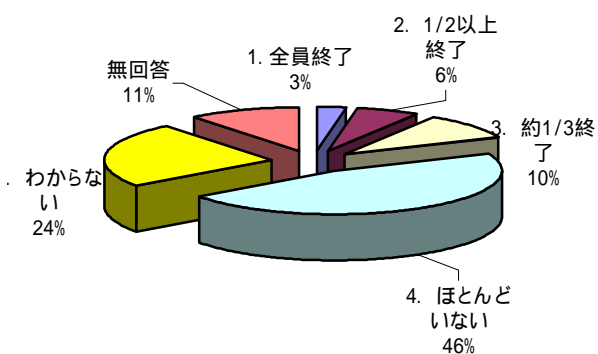
問23. 施設内で臨床検査技師が参加できる勉強会・研修会が行われていますか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1.定期的に行っている	1228	29.0	1656	33.4
2.時々行う	1938	45.8	1833	37.0
3.ほとんど行わない	966	22.8	1003	20.2
無回答	97	2.3	468	9.4
合計	4229	100%	4960	100%



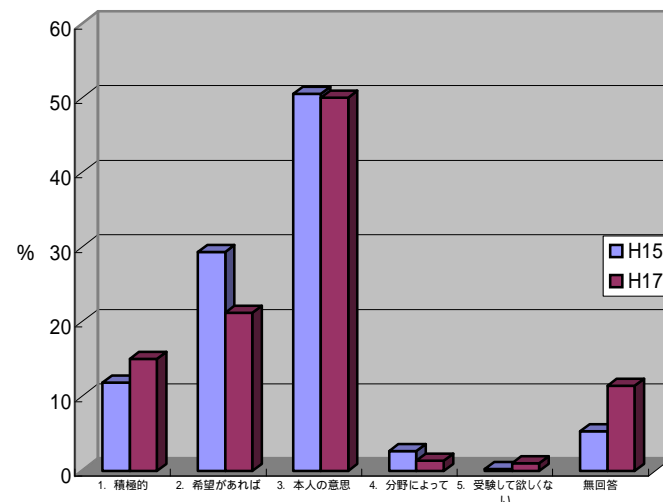
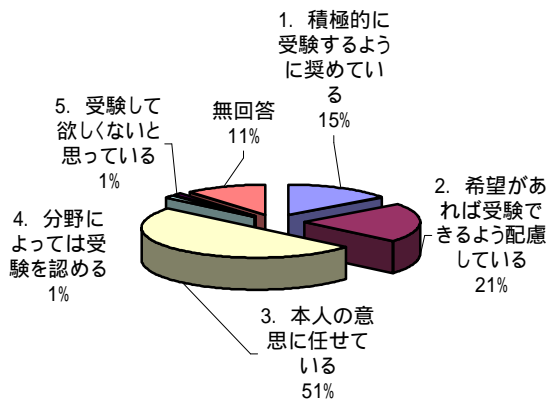
問24. 日臨技生涯教育研修会の「修了証書」受領状況はこれまでにどのくらいですか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 全員終了	151	3.6	131	2.6
2. 1/2以上終了	341	8.1	305	6.1
3. 約1/3終了	382	9.0	481	9.7
4. ほとんどいない	1737	41.1	2304	46.5
5. わからない	1447	34.2	1204	24.3
無回答	170	4.0	535	10.8
合計	4228	100%	4960	100%



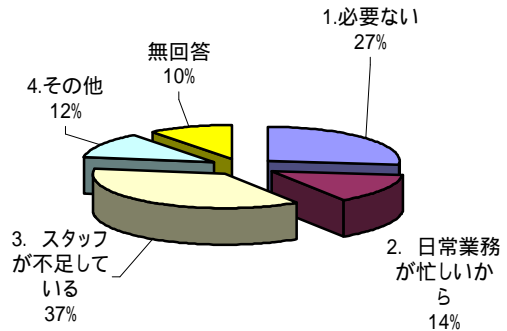
問25. 各種認定検査技師についてはどのように対応されていますか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 積極的に受験するように奨めている	501	11.8	749	15.0
2. 希望があれば受験できるよう配慮している	1242	29.4	1058	21.2
3. 本人の意思に任せている	2140	50.6	2501	50.1
4. 分野によっては受験を認める	111	2.6	69	1.4
5. 受験して欲しくないと思っている	9	0.2	49	1.0
無回答	226	5.3	570	11.4
合計	4229	100%	4996	100%



「問25.」で「5」と回答した施設の方にご質問します。
 問26. 受験して欲しくない。その理由をお聞かせください。

回答	回答数	%
1. 必要ない	13	26.5
2. 日常業務が忙しいから	7	14.3
3. スタッフが不足している	18	36.7
4. その他	6	12.2
無回答	5	10.2
合計	49	100%

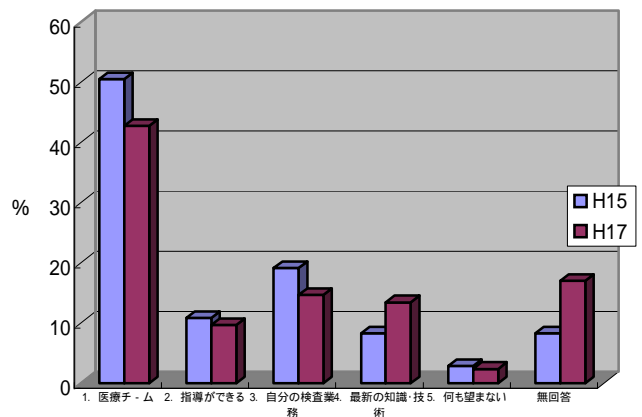
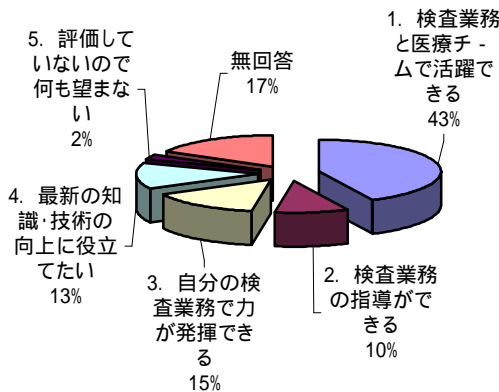


4 その他 内訳

業務配置上、有効利用できず場合によっては無駄な肩書きである
検査技師用の国家試験があるのだからもっと検査業務の拡大と制限をやって欲しい。また、名称も統一すべき
現職場において無意味

問27. どのような認定検査技師を望みますか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 検査業務と医療チームで活躍できる	2136	50.5	2122	42.8
2. 検査業務の指導ができる	461	10.9	481	9.7
3. 自分の検査業務で力が発揮できる	808	19.1	726	14.6
4. 最新の知識・技術の向上に役立てたい	353	8.3	668	13.5
5. 評価していないので何も望まない	120	2.8	119	2.4
無回答	351	8.3	844	17.0
合計	4229	100%	4960	100%



【コメント(問22～27)】

勉強会・研修会の実施、参加については、部門内では前回と比較して「時々行う」と回答したところが9%近く減少しており、無回答も6%近く増加している。施設内で見ると「定期的に行っている」施設が4%高くなっているが、逆に「時々行う」と回答した施設が9%減少している。また、「ほとんど行わない」施設も3%減少している。

生涯教育研修会の「終了証書」受領状況については「ほとんどいない」、「わからない」を合わせると70%あり、前回より5%減少しているが、依然無関心さを表していると思われる。

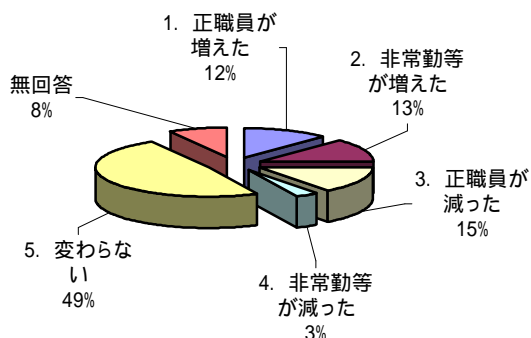
各種認定技師については「受験するように奨めている」とする回答が前回より3%増加しているが、「配慮している」と答えたのが前回より8%減少しており矛盾がみられた。「受験してほしくない」と回答した中で、忙しいからとスタッフが不足しているのを合わせて50%の半数を占めている。

望まれる認定検査技師については、「無回答」と「評価していない」を合わせて19%で前回より8%増えている。

臨床検査技師の就職状況について

問28. あなたの施設では臨床検査技師の数が過去2年間にどのように変わりましたか。（複数回答可）

回答	回答数	%
1. 正職員が増えた	668	12.3
2. 非常勤等が増えた	681	12.6
3. 正職員が減った	804	14.8
4. 非常勤等が減った	184	3.4
5. 変わらない	2628	48.5
無回答	457	8.4
合計	5422	100%



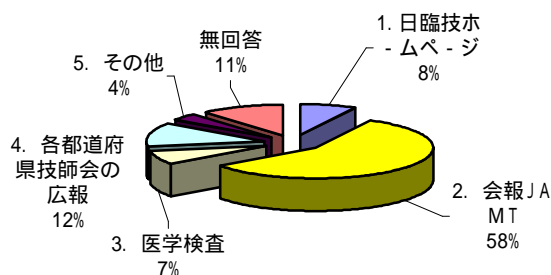
【コメント】

今回初めての設問の為、過去との比較は出来ないが、回答数5,422と多くの回答を得ることが出来た。増減でみると、全体としては正職員が減った>非常勤等が増えた>正職員が増えたの順に10%台の変動が見られ、非常勤等が減ったの3%を大きく上回り、減少は正職員が顕著であるが、増加を見ると非常勤等と正職員が拮抗した結果であった。母集団の多くを占める一般病院や衛生検査所などは同様の傾向にあったが、健診センターでの増加は非常勤等が常勤の倍に達し、人数は少ないであろうが診療所では減少より増加が優位であった。

日臨技の法改正運動について

問29. 法改正案が可決成立しました。このことは、どのような情報から得られましたか。

回答	回答数	%
1. 日臨技ホ - ムペ - ジ	392	7.9
2. 会報 J A M T	2835	57.2
3. 医学検査	362	7.3
4. 各都道府県技師会の広報	614	12.4
5. その他	190	3.8
無回答	567	11.4
合計	4960	100%

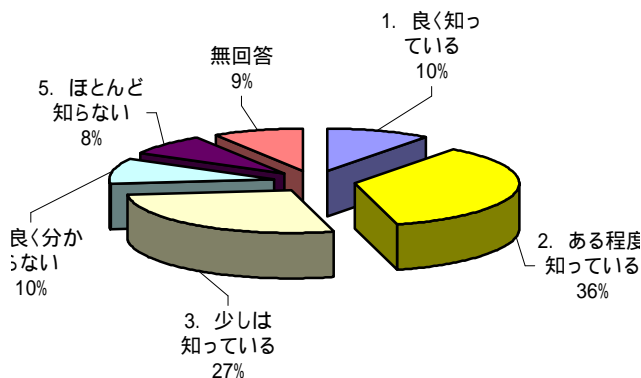


6. その他 内訳

回答	件数
M E D I F A X	32
M T J	29
県技師会、理事会	28
知らなかった	27
業界誌	11
新聞、ニュース	8
T V ニュース	7
メーリングリスト	7
研修会等	5
官報	3

問30. この法改正案の内容についてお尋ねします。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 良く知っている	664	15.7	515	10.4
2. ある程度知っている	2764	65.4	1763	35.5
3. 少しは知っている			1358	27.4
4. 良く分からない	750	17.7	485	9.8
5. ほとんど知らない			403	8.1
無回答	51	1.2	436	8.8
合計	4229	100%	4960	100%

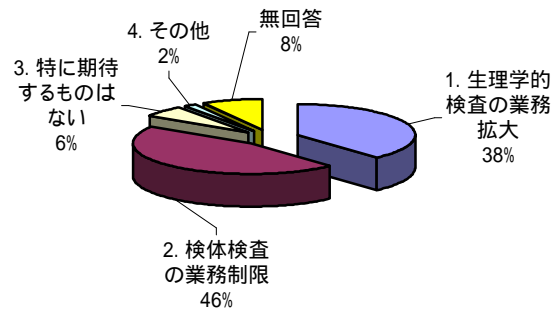


問31. 今後の法改正運動にはどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. 生理学的検査の業務拡大	664	15.7	2566	38.4
2. 検体検査の業務制限	2764	65.4	3055	45.7
3. 特に期待するものはない			397	5.9
4. その他	750	17.7	110	1.6
無回答			553	8.3
	51	1.2		
合計	4229	100%	6681	100%

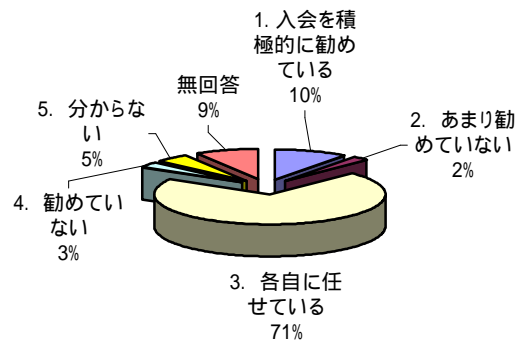
4 その他 内訳

回答	件数
業務独占、業務制限	15
ベッド数に応じた人員数の法令化	11
検査指導料等の導入	10
4年生以上の教育への移行	8
業務拡大	8
ケアマネージャー	6
医療法に臨床技師の名前を地位向上	5
地位向上	5
プランチ、FMSなどの規制	3



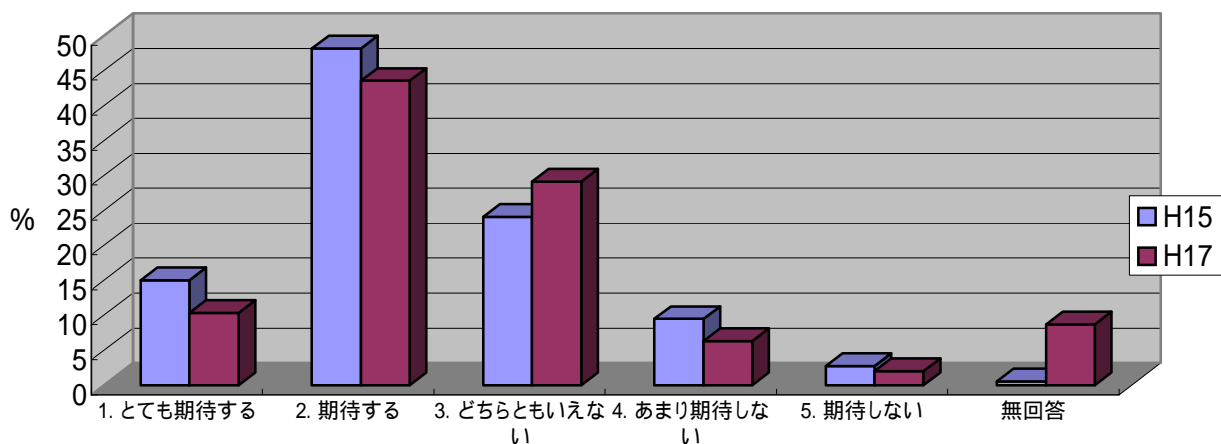
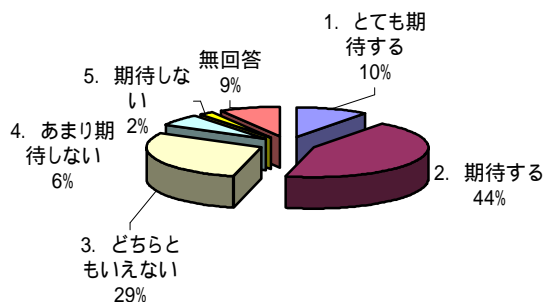
問32. 貴施設では日本臨床検査技師連盟についてどのように考えていますか。

回答	回答数	%
1. 入会を積極的に勧めている	512	10.3
2. あまり勧めていない	112	2.3
3. 各自に任せている	3512	70.8
4. 勧めていない	145	2.9
5. 分からない	235	4.7
無回答	444	9.0
合計	4960	100%



問33. 日本臨床検査技師連盟の今後の活動に対して期待していますか。

回答	平成15年度		平成17年度	
	回答数	%	回答数	%
1. とても期待する	585	15.0	513	10.3
2. 期待する	1878	48.2	2161	43.6
3. どちらともいえない	938	24.1	1444	29.1
4. あまり期待しない	369	9.5	312	6.3
5. 期待しない	106	2.7	99	2.0
無回答	21	0.5	431	8.7
合計	3897	100%	4960	100%



【コメント】

”法改正案可決の情報源”については、‘会報「JAMT」’と‘日臨技ホ - ムペ - ジ’で約6割を占めており、情報提供の役割を果たしていることが表れている。今後とも一層の充実に努める事が重要である。また‘各都道府県技師会の広報’は約1割であるため、都道府県や地区技師会及び当会との連携を更に密にし、迅速な情報の共有化と発信に努めることが必要ではないだろうか。"法改正案の内容について"は程度の差こそあれ‘知っている’とした会員が約6割であり、成立に対する関心の高さと思われる。しかし、‘よく分らない’‘知らない’‘無回答’が約3割あることは、無関心なのか業務煩雑によるものか等の様々な要因を分析し、解消への努力も必要である。"今後の法改正運動への期待"は、今回見送られた‘検体検査の業務制限’を1位に挙げている。議会や厚労省との折衝は当然ながら、粘り強く他団体との理解と協力を得て、実現に向けて活動を行わなければならない。技師連盟については、前回(15年度)の調査において7割以上の会員が知っていたが、今回の1歩踏み込んだ"連盟入会の呼びかけ"の間については、‘積極的に呼びかけている’施設が1割前後と少なく、‘各自に任せている’や‘進めていない’施設を合わせると7割以上もある。このことは、施設責任者への対策が加入数を増す為の大きな鍵となることの表れである。また、連盟活動に対する期待感が約5割であることは、法改正が大きく前進したことによるものと思われ、入会の必然性を促す為の啓発活動を強く推し進めることが、組織力の強化に繋がるのではないだろうか。

総 括

今回の『検査部門の実態調査及び会員の意識調査』は、従来のアンケート調査内容と大きく異なる点があります。それは、前回（平成 15 年度）と同じ設問内容については前回の比較表と円グラフを対比させて掲載し、前回との比較を容易にしたことです。また、設問内容についても従来の組織調査を充分検討し、会員の要望を取り入れたものとなりました。

平成 17 年度検査部門の実態調査アンケートについては、発送数 8,015、回答数 4,960、回収率 61.9%でありました。前回は、発送数 7,799、回答数 4,173、回収率 53.5%であり、前回と比較して 8.4%の増加となり、都道府県別の回収率は 0～18.1%と全体に増加傾向となっています。検査部門の管理体制については、臨床検査技師の責任者の割合が 60.4%であり、前回の調査と殆ど差が認められませんでした。チーム医療への参画は、多くの施設で行われている現状でした。今回、新たな設問である採血に関する内容については、臨床検査技師による採血を行っている施設が 34.8%と少なく、また、中央採血室を持たない施設も 28.1%であり、まだまだ進んでいない状況であることが分かりました。臨床検査技師の就職状況については、今回新たな設問であり前回との比較は出来ませんが、正職員の採用数が減り、非常勤が増加していることが伺えます。特に、健診センターでは非常勤職員の増加傾向が目立ちました。

会員の意識調査の回収状況は、全会員 47,895 名(平成 17 年 8 月 31 日現在)の 60.7%、29,058 名から回答を頂きました。前回の回収率 59.0%に比べ約 2%の増加となりました。性別・年齢別・役職別・非常勤数の割合の状況は、前回と比較しても大きな変動はないものの、非常勤の男性が女性に比べ、また、20 代と 30 代の会員数も増加傾向にあることが分かりました。日臨技活動については、前回調査と比較して全体的には変化はみられませんが、性別・役職・年齢ごとでは明らかに差が認められました。学会・研修会・精度管理調査への不参加、各種事業・助成金等について知らない、又は理解していない会員が減少傾向にあります。日臨技ホームページ・日臨技総合情報システムについては、前回の調査と比較して利用している会員が増加傾向にあることが分かりました。会報「JAMT」については、役職者で高齢層の会員、女性より男性により多く読まれている傾向が認められました。これらのことから日臨技活動が着実に成果を挙げているものと思われました。

平成 17 年度の組織調査を解析した結果、本調査は、日臨技活動状況を把握する上で貴重なものであり、日臨技として今後どのような対応をすべきかその方向性を示す判断材料として、多くの会員が十分に満足する組織調査を推進したいと考えております。さらに、会員が満足できるような各種活動の展開に反映させていきたいと思っておりますのでご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。尚、今回の組織調査結果については、会誌「医学検査」に掲載し、全会員にお知らせする予定です。

最後に、この調査にご協力いただいた会員各位、各都道府県技師会及び担当理事を始めとする関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

平成 18 年 3 月

組 織 調 査 部 会

白石 幸雄 山城 光俊
鈴木 悦 佐藤 誠
大富 正壽 小太刀 充
下田 勝二